



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

ぜんそく （気管支ぜんそく）

ぜんそくは、のどと肺をつないでいる気道という部分が炎症を起こすことによって狭くなり、呼吸がしにくくなる病気です。原因としては、遺伝に加えてタバコや工場の排煙などの刺激やストレスによって起こるといわれています。

ぜんそくのお薬は、大きく分けて2種類あります。1つは「長期管理薬」といって、気道の炎症を抑えたり、気道を広げ空気の通り道を確保したりして、ぜんそく症状のない状態にしてくれるお薬です。このお薬は、症状やぜんそく発作がなくても、毎日規則正しく使うことによって効果を発揮します。もうひとつのお薬は「発作治療薬」といって、ぜんそく発作が起こったと

きにその症状を和らげます。

よく、ぜんそく発作が起こったときだけ発作を抑える「発作治療薬」を使って、普段は何もお薬を使っていないという方がおられますが、ぜんそくの方の気道は症状が出ていなくても常に炎症を起こしている状態なので、「長期管理薬」を使って症状やぜんそく発作を起こりにくくすることが重要です。

その「長期管理薬」ですが、基本になるものは「吸入ステロイド薬」で、気道に直接作用し炎症を抑えます。気道にだけ作用するので使用する量も少なく、その結果、副作用も少なくなります。ただ、吸入した後、口やのどに残ったお薬が副作用を起こすことがあるので、うがいをして残ったお薬を取り除く必要があります。「吸入ステロイド薬」のほかには、気道を広げたり炎症を抑えたりする作用のある飲み薬や、吸入薬や貼り薬もあります。

症状が重くなればそれらを組み合わせたり、飲み薬のステロイド剤を服用することもあります。

最近の吸入薬はガス状のお薬を吸入する「エアゾール吸入器」に加えて、粉状のお薬を吸入する「ドライパウダー吸入器」も多くあります。「ドライパウダー吸入器」は吸入するタイミングを合わせる必要がなく、残りの吸入回数がかかるなどの特徴があり、「エアゾール吸入器」は吸入補助器具（スパーサー）を使えば、自分でお薬を吸い込む必要のある「ドライパウダー吸入器」を吸入できない幼児や高齢者の方にも吸入していただくことができます。正しく使えば効果などは変わらないので、使いやすいほうをお医者さんに選んでもらえばよいでしょう。

ぜんそくは、上手にコントロールさえできれば症状も出ず、日常生活を快適に送ることができます。